

令和3年度

租税教育実践発表会資料



石巻市立河南東中学校

教諭 中谷 友祐

1 はじめに

一般的に「租税教育」という言葉を聞くと、生徒たちに税の種類や使われ方、また納税の仕組み等を学ばせ、国民として税金を払う義務があることを教えるものというイメージを持ちやすい。しかしながら、税金を払うという観念を植え付けることだけが目的ではない。

中学校学習指導要領・社会における公民的分野では、「国民の生活と政府の役割」という内容項目において、「財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解すること」と、「財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察し、表現すること」が掲げられている。内容を取り扱う上で、「財源の確保と配分という観点から、財政の現状や少子高齢社会など現代社会の特色を踏まえて財政の持続可能性と関連付けて考察し、表現させる」ことに配慮することとされている。したがって本実践を通じて、少子高齢化が進む日本における国家や地方自治体の財政の現状を捉えさせ、持続可能な社会を形成していく上での租税の大切さを考えさせることで、納税者としての意識を高めることにつなげたい。

2 生徒の実態〔第3学年1組 男17名 女12名 計29名〕

標準学力検査（R3.5実施）の結果をみると、社会的事象への関心が強く、課題について考察し、説明することができる生徒が多いことが分かった。しかし一方で、資料活用の技能や社会的事象についての知識・理解については、校内正答率が全国平均値や目標値を下回っている。これを受け、これまでの授業では適用問題や週末課題・単元テストを通じた知識の確実な習得と、資料読み取りの時間を多く取り入れ、協同学習を通じて多面的・多角的な見方・考え方に気付かせる取組を実施してきた。

税の学習に関する意識調査（R3.9実施）によれば、身近な生活の中で税金が使われているということについて具体的なイメージを持てている生徒が多いことが分かった。また、財政や租税に関する授業を受ける前の時点では、将来的に政府が増税を課すことに対しては、賛成の立場をとっている生徒が多く見られることが分かった。

【意識調査の結果】（Google フォームで実施、回答者数27名）

- ①あなたは「税金」という言葉を聞いて、どんな税を思い浮かべますか。頭の中で思いついた税の名前を入力してください。

☐ 消費税（23人）	☐ 固定資産税（3人）	☐ 所得税（5人）	☐ 酒税（1人）
☐ よく分からない（1人）			

- ②税金がどのように使われているか、その使い道について知っていることを入力してください。

☐ コロナ対策（2人）	☐ 警察や消防（5人）	☐ 公共の施設の整備（7人）	☐ 公務員の給料
☐ 国の運営（3人）	☐ 国会議員の給料	☐ 国道の運営	☐ 子供の教育
☐ 道路整備（4人）	☐ 学校の机やイス	☐ 学校の教科書（2人）	☐ 救急車（4人）
☐ 震災からの復興	☐ オリンピック事業	☐ 社会保障	☐ 病院運営
		☐ 自衛隊	

- ③ここ数年で消費税やたばこ税など、いくつかの税金が増税されました。あなたは増税に賛成ですか、反対ですか（現時点での考えで構いません）

賛成	63%	【主な理由】 ☐ 税金は生活に必要なことに使われているから ☐ 増税して色々なことが便利になるなら良いから ☐ 税が増えると経済が回りやすくなるから ☐ 日本の借金が多いので、増税しないと返済できないと思うから ☐ 自分が払った税金が誰かのために使われているのなら嬉しいから
----	-----	--

反対	37%	【主な理由】 ●いくら増税しても国が豊かにはならない ●負担が増える。今まで買っていたのが高くなるのが嫌。 ●今のままで十分だと思う ●消費税やタバコ税を増税すると値段が高くて買う人が減ってしまうと思うから
----	-----	---

3 指導にあたって

全体を5時間扱いとし、前半部分では税金の仕組みと使い道、財政の役割、社会保障制度の仕組みについての知識を身に付けさせる。その際、生徒たちに納税者としての意識と現代社会における税の役割の大切さを捉えさせるために、宮城県租税教育推進協議会と仙台湾税局が制作した「私たちの暮らしと税（令和3年度版）」を授業内で活用し、国家予算や各種税率、社会保障費の統計データ等を読み取らせながら、これからの社会と税の在り方について考察させる。

後半部分（本時の授業）では、前時までに学習した少子高齢化による日本の財政や社会保障制度への影響を踏まえ、「大きな政府」と「小さな政府」という二つの対立軸を基に、今後の日本において社会保障の充実を優先すべきか、国民の負担軽減を優先すべきかについて、増税の影響に着目させながら、多面的・多角的に考察させる。見解の違う人と意見交流をさせ、税負担が大きくなることでの生活への影響や、反対に子育てや就労支援、老後の支援を必要とする人の主張などから、課題に対しての自らの考えをより深めさせる。

4 指導計画

時	主な学習活動	評価の観点
1	私たちの生活と財政 ・私たちが納める税金の種類や仕組みについて、理解する。 ・公正の観点から税金の負担について考察する。	● 財政及び租税の意義「税金の仕組みについて理解している。（知技） ● 税金の公平な負担について、政府や納税者などの立場から多面的・多角的に考察し、公正に判断している。（思判表）
2	財政の役割と課題 ・身近な社会資本や公共サービスについて調べ、政府が果たしている経済的な役割と課題を理解する。	● 具体的な事例を通して社会資本や公共サービスを調べ、政府の経済的な役割を理解している。（知技）
3	社会保障の仕組み ・社会保障制度の仕組みについて理解する。 ・社会保障制度の課題について、持続可能性の観点から考察する。	● 社会保障の基本的な考え方と日本の社会保障制度のあらましについて理解している。（知技） ● これからの社会保障制度について、持続可能性の観点から考察し、自らの言葉で表現している。（思判表）
4	少子高齢化と財政① ・少子高齢化の財政への影響について理解する。 ・社会保険制度の抱える課題について、制度の仕組みの面から考察する。	● 少子高齢化が進むことによる財政への影響について理解している。（知技） ● 社会保険制度が抱える課題について、制度の仕組みの面から考察し、表現している。（思判表）
5 （本時）	少子高齢化と財政② ・少子高齢社会における今後の社会保障制度のあり方について、社会保障の拡充か国民の負担軽減かの視点から考察する。	● 少子高齢社会が進む日本において、社会保障制度の充実と財政の健全化の両立が難しい理由を、増税の影響に着目し、多面的・多角的に考察し、表現している。（思判表）

5 本時の流れ

本時の目標	少子高齢化と財政② ○少子高齢社会における今後の社会保障制度のあり方について、社会保障の拡充か国民の負担軽減かの視点から考察する。
-------	--

段階	学習活動・学習内容 ・予想される生徒の反応	形態	○指導上の留意点 ●教師の支援	評価の観点 評価の方法
導入 8分	1 前時の確認 前時の学習事項を復習する。	一斉	○現代の日本社会では少子高齢化が進み、今後の社会保障制度が維持できるかどうかの課題があることを確認させる。 ○第2時に学習した、「大きな政府」と「小さな政府」という概念の違いについても再確認させる。	
	2 本時の学習課題を確認	一斉	○学習課題をノートに記入させる。	
課題：少子高齢社会において、今後の日本では社会保障の拡充を優先すべきか、国民の負担軽減を優先すべきか。				
展開 32分	3 立場の選択と考察①（8分） これからの日本の社会保障のあり方について、A～Dの意見から、自分の考えに最も近いものを一つ選び、理由とともに入力しましょう。	個別	○人口推計、社会保障給付費の推移、財源の内訳、日本と外国の税金比較などさまざまな資料から読み取れることを基に、立場を1つ選択させる。 ○自分の選択した立場と、その立場を選んだ理由を iPad で Google フォームに入力させる。 ●机間指導をしながら、資料の読み取りができていない生徒が多ければ、適宜見方のアドバイスを行う。	
	4 立場の選択と考察②（8分） 自分と同じ考えの人同士で集まり、理由を述べ合い、考えを深めましょう。	グループ	○自分と同じ考えを選んだ人同士で、どうしてその立場を選んだのか、理由を発表し合い、考えを深めさせる。 ○どの資料のどの部分を手掛かりにしたか、根拠を明確にさせる。 ○この後、立場の違う人同士で意見交換をすることを伝え、そこでしっかりと理由を述べられるよう、準備させる。	
	5 意見交換（10分） 自分と異なる立場の意見を聞き、さらに考えを深めましょう。自らの考えを変える場合にはその理由を述べましょう。また反論等がある場合にはその内容を質問し、議論しましょう。	グループ	○3～4人のグループを編成し、立場の違う人の意見を聞きながら、自分の考えを深めさせる。 ●グループ内で司会・計時係を決め、円滑に議論が進むようにさせる。 ○意見を聞きながら、自らの考えが変わった場合には、変わった理由を明確にさせる。 ○相手の意見を聞いて、疑問点や反論がある場合には、グループ内で協議をさせる。	・少子高齢社会における社会保障制度の充実と経済成長の両立が難しい理由を、増税の影響に着目し、多面的・多角的に考察し、表現している。【思判表】 (評価方法：フォームにおける個人の記述)

	6 全体共有と補足（6分） 学級全体で各立場を選んだ割合とグループ内で出された意見を確認しましょう。	一斉	○フォームで集約した内容を確認させる。 ○各グループ内で出た意見や議論してみても感想を発表させ、全体で共有する。 ●この課題に正解はないことを伝え、今後の日本社会が「大きな政府」・「小さな政府」のどちらの方向に進んでいくのか、世の中の動きに注目してほしいということ話を話してまとめる。	
終結 10分	7 本時のまとめ（10分） 税に関する学習を通して、感じたことや考えたことを書きましょう。	個別	○これまでの租税の学習を振り返り、感想や意見を文章で記述させる。 ○数名の生徒を指名して発表させる。	

6 授業を終えて

（１）生徒の感想から

- ◇一番初めに思ったのが、これからの世代は損だなということ。人口が減り、一人当たりの負担が増えるし、税制度や国債とかのゴタゴタした政治の話にもついていかなければいけないから。今後さらに進むであろう高齢化にも注意しながら議論しなければならないし、正直な感想を言えば面倒。「未来の世代」を考えながら政治をしていかなければ今の私たちの二の舞だと思った。
- ◇税金のことを学んで、最初は税金をどんどん増やしてもよいと思っていたけれど、増やしたら増やしたで国民の負担が増えて生活に困る人がいるのを知って、もっと多くの人の意見を通してなるべく納得してもらえるような結論を出すべきだと思った。
- ◇今までは増税のニュースを見ると、なんで増税なんてするのだろうと思っていたけれど、この公民の授業で税の学習をして、税はなければいけないもので、国民を支えているものだということがよく分かった。
- ◇税は自分たちから集められているが、その税の使われ方などを知るうちに、税金の大切さや重大さについてよく理解することができた。社会保障を維持するのはとても大変だと思うが、維持しなければ困る人が出てくるのも事実。今後のことは難しいなと思った。
- ◇大人たちは「税金～～」とかいろいろ言っているけれど、その税金はいろんなサービスに使っているから、税金は大事なのだと思った。税金のおかげで、いろんなことができているのはすごいと思う。
- ◇「税」の存在自体が、とても難しいものなのだと感じました。夏休みの課題作文にも書きましたが、もしもこの国から税が無くなったなら、今までの「当たり前」が「非常」に変わってしまいます。しかしそれは私たち若い世代にとっての「当たり前」だけでなく年金や医療保険等にも当てはまります。日本は自分で当初思い描いていたよりもはるかに、密接に税とかかわっていました。税金がなければ、国は確実に成り立ちません。税金は決してなくしてはいけないものだとは強く感じました。
- ◇勉強をするまで、税は高くて嫌なものというイメージだったけれど、実際作文を書く中で調べたり授業を受けてみたりして、私たちが普段払っている消費税などの税は学校の整備や道路の修理など私たちの周りの多くの場面で使われていると知って、これまで「消費税を減らしてほしい」と思っていたけれど、このままの保障・サービスが続く、あるいはもっとよくなるなら税金を払うことは大切で、自分たちのためにもなると思った。

◇税の授業を受けて税の仕組みが前よりわかりました。国民の税について、もっと他に使い道があるのではないかなと思いました。高い所得税を払っているのに必要性のないことに使われるのは困ります。何がしたいのかと思いました。国民全体のために使ってほしいです。

◇自分の親も多くの税を納めていることに気付いたので、今までとは別の観点で生活を行うようになった。税の知識は将来生きていく中で、必ず必要になると思うから、だまされたりしないように、今後も税について気になったことについては調べていきたいと思った。

◇大人になっていけば、今以上に税金を支払う場面が増えるので、今回習ったことを忘れずに過ごして行きたいと思う。「増税」等の問題をうのみにするのではなく、その場合のメリット・デメリットをしっかりと考えられるようにしたい。今の自分も納税者の一人であるという自覚を持って、これからも生きていきたい。



(2) 授業の事後検討会より

○成果

- ・主体的に取り組む姿が見られ、指導の積み重ねの成果を感じられた。
- ・生徒が議題に対して、税の知識を使って意見を出し合うことができていた。
- ・ジグソー法での意見交流をしたことで、多くの考え方に触れる機会となっており、実際友達のことを聞いて、自らの考えが変わった生徒もいたようであった。
- ・Google ツールを活用した思考の交流が良かった。
- ・違う立場の人との意見交換で熱量をもって話し合っている生徒の姿が多く見られた。互いの話を聞き終わった後に「国民の声」として具体的なエピソードを投じたことでさらに話合いの質が深まったと思われる。
- ・各自の考えを出し合い、聞き合いすることで「深い学び」の入り口に立てたと感じる。
- ・知識がないと立場を決められない選択を迫ることで、分からないことを調べたり、既習事項を確認したりする姿が見られ、「主体的な学び」への足がかりになり得ると感じた。
- ・同意見同士での意見交流の場も設定したことで自分の意見に自信が持った生徒も多い。
- ・答えのない問いに対して考える姿勢や力を養うのに良い課題だと感じた。
- ・「税金減らしたら経済活動が活発になる」という見方の生徒がもう少しいるかと思ったが、やはり自分で納税していないと実感に乏しいところがあった。
- ・世の中の仕組みについて、何が正しいか自分の頭で考えた経験は、ずっと自分の中に残っていくのではないかと。新学習指導要領が求めている力はこういったことなのかもしれない。
- ・夏休み中の税の作文づくりの段階で調べた知識が生かされていた。そもそも「税金は取られる」という発想から「税金は必要だ」と考えを変えた生徒が多くいたので、本授業での意見づくりに十分生かされていたと思う。
- ・この授業の主体は生徒だった。授業者がコーディネーターとして機能し、生徒たちは安心して対話ができたとと思う。学級経営もあいまって、生徒たちが素直に伸びていく素地ができあがっていると感じた。

- ・生徒たちは医療や高齢者等様々な視点から考えを述べていた。生徒それぞれの生活経験や家庭環境によって考え方が変わってくるのが面白かった。
- ・今回の授業のように、学力差に関係なく多くの生徒が様々な意見を言い合うことができる課題は協同学習に適している。

●課題

- ・教科書の内容により仕方ないことかもしれないが、Google フォームの選択肢に国の名前を入れずにどの国がどのシステムを採用しているか予想させるのも面白い。さらにその理由を探ることでシステムへの理解も深まると感じる。選択式のミニテストを実施して、国のもつ雰囲気と社会保障のスタイルについて連携させてみるといった課題も興味深い。
- ・途中で意見を変えた人の意見を聞く場面があってもよかったと感じる。
- ・社会保障に関して、道路の通行料等、公共事業の視点も加えてあげるとさらに議論が深まる。
- ・本日の過程の中で、「6 全体共有と補足」はあの段階でよかったのか。当初の考えから変容があったか自分で確認できると良かったと感じた。
- ・50分授業1コマで実施したため仕方がないことだが、短い時間での意見交換は難しいと感じた。
- ・誰のどのような意見がきっかけで自分の考えが変容したかなどを共有するのも、面白いのかなあと思った。
- ・課題の中のA～Dの選択肢を選択する判断基準が難しいと感じた。でも、調べていた生徒も多かったので、生徒たちはしっかり取り組んでいる様子が見られた。
- ・世界の国の幸福度ランキングや、GDPランキングと社会保障が比例しているのかなど、突き詰めようとするといろいろ面白い材料があるかもしれない。
- ・課題の中のA～Dの選択肢を判断する際に、前提条件があると判断しやすくなったと思った。国の情勢や社会状況などの要素に左右されると思うので、いくつかのケースで考えさせることも面白いと思った。
- ・話し合いや議論では、声の大きな生徒の意見が通りやすい。そういった場面でタブレット端末や Google のツールを活用し、なかなか声を発して意見を言えない生徒たちの考えを入力させることで、様々な意見が集まると感じる。



7 おわりに

今回の租税に関する学習を通して、多くの生徒たちの中で「税」というものに対する意識が変わったと感じる。これまであまり意識してこなかった租税の使い道や役割について考えるだけでなく、自分たちが大人になってからの税制度や社会保障制度の在り方などについても目を向けさせ、生徒同士で深い話し合いをさせることができたと感じる。私自身も中学生に対する租税教育のあり方についてじっくりと考えるきっかけとなった。このような授業実践の機会を提供いただいたことに感謝したい。